

 <p>氏名 北山 哲也 年齢 47歳 所属 甲斐リハビリテーション クリニック</p>	 <p>氏名 菊池 信 年齢 42歳 所属 山梨リハビリテーション 病院</p>	 <p>氏名 鮎川 将之 年齢 38歳 所属 山梨リハビリテーション 病院</p>	 <p>氏名 平賀 篤 年齢 38歳 所属 帝京科学大学</p>
<p>私は学術局長、生涯学習局長など十数年に渡り、山梨県理学療法士会の学術分野においてお手伝いをさせていただきました。この経験を糧に再度、理事に立候補させて頂き、会員の皆様にとって有益な研修会、学術大会などを開催できるよう努めていきたいと思ひます。</p> <p>また、今年度より新生涯学習システムがスタートします。会員の皆様には最新情報をシンプルにお伝えできるようにホームページやメーリングリストなどを活用していきます。また、アンケートなども適宜実施し、会員の皆様の声を真摯に受けとめ、個々の知識、技術向上の一助となる企画を熟考していきます。山梨県理学療法士会が学術団体として社会から更に一目おかれるような素晴らしい団体となるように微力ながら携わることができれば幸いです。どうぞよろしくお願い致します。</p>	<p>私は県士会主催の学術集会の運営部員から県士会活動に携わることになり、その後学術集会部の部長として8年、さらに4年間学術大会局長として学会運営を中心としながら、その他県士会活動に参加させていただきました。最近では新型コロナウイルスの感染拡大の影響から学会の延期や対面形式からリモート開催へ切り替え等がありました。企画の再考や運営方法の変更に四苦八苦しながらも何とか難局を乗り越えることが出来ました。第3回のリハ専門職による合同学術大会も実行委員長として活動させていただき、県内のリハ専門職間の垣根を越えた活動を間近に感じられたことは大変貴重な経験でした。</p> <p>県士会も50周年を迎え、さらなる学術団体としての発展は不可欠であり、学会の開催がその一助となると思ひます。これまでの経験を活かし、会員の皆様に最新の知見を学べるような機会を提供できればと思ひ、立候補いたしました。微力ながら、私自身もより成長できるよう会員の皆様と共に学ぶ姿勢で頑張りたいと思ひますので、よろしくお願い致します。</p>	<p>私はこれまで山梨県士会学術集会部副部長などを務め、学術集会の運営を中心に山梨県士会活動に尽力してまいりました。また、昨年は日本神経理学療法学会サテライトカンファレンスの準備委員長を務め、コロナ禍における学術大会の運営も経験してまいりました。今年からは、認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関として当院が承認されたため、認定理学療法士取得に向けた教育にも関わらせていただきま</p> <p>山梨県士会員の理学療法における学びを継続していくためにも、コロナ禍という難しい社会状況や新生涯学習制度への移行に対応していきながら生涯学習教育に取り組んでいきたいと思ひております。これまでの経験を基に、諸先輩の方々が築きあげてこられた山梨県理学療法士会の運営に微力ではございますが誠心誠意尽力させていただきたく立候補いたしました。よろしくお願い致します。</p>	<p>この度山梨県理学療法士会の理事に立候補致しました平賀篤です。今回理事に立候補させていただいた理由は2つあります。1つ目は、「県士会員間の連携強化」に尽力したいと考えたからです。医療・介護では2025年度に向けた病床再編に代表されるようにシームレスな対応と相互連携強化が求められています。そのような中で理学療法士が連携を取りやすい環境を構築することは、山梨県の医療・介護の質の向上につながると思ひています。</p> <p>2つ目は「臨床実践につながるエビデンスの整理と学術的知識の共有」に尽力したいと考えたからです。学術誌の刊行をはじめとした様々な取り組みを通じて、根拠のある理学療法を実践できるような土台作りをできればと思ひております。</p> <p>臨床に加えて研究や教育などの向上に貢献したく、今回理事に再度立候補致しました。理学療法士が社会でより活躍できるような基盤を作りたいと思ひております。どうぞよろしくお願い致します。</p>

 <p>氏名 古屋 伴仁 年齢 46歳 所属 韮崎市立病院</p>	 <p>氏名 渡邊 修司 年齢 34歳 所属 帝京科学大学</p>	 <p>氏名 有泉 静佳 年齢 55歳 所属 山梨県立あけぼの医療福祉センター</p>	 <p>氏名 小林 司 年齢 42歳 所属 石和温泉病院</p>
<p>この度、県士会活動の運営へ引き続き携わりたく、理事へ立候補いたしました。社会局長として担当した委託事業部、スポーツ理学療法部の活動では、外部団体からの依頼に対応することに関わりましたが、感染予防対策のため、これまで行なってきた事業の中止、変更など、活動の場が減少しています。両部の活動を通じて理学療法士の必要性、重要性を示すために、士会員との協力体制の整備などを行いたいと考えております。健康増進や障がい予防、またスポーツ分野での活動なども行い、社会貢献を果たし、理学療法士が地域社会に必要とされ、より活躍できる環境をつくりたいと考えております。より良い士会活動となるために、士会員の皆様と共に士会運営に取り組んでいきたいと考えております。</p>	<p>これまで、学術研修部長として研修会開催の運営に携わって参りました。学術研修部長就任当初はCOVID-19が感染拡大しつつあった時期でもあり、今では多くの方に活用されているzoomなどのオンライン会議アプリの認知度が急速に拡大した時期でもありました。今後、通信回線では第5世代移動通信システム（5G）の商用サービスがより浸透してだけでなく、6Gの実用化も期待されており、AIやIoTといった分野も理学療法士の職域に関与してくることが予測されています。一方で、これから先の未来においても、対面による臨床推論や治療展開の可否は我々理学療法士の強みであることは言うまでもありません。新しいものを漫然と受け入れていくだけでなく、これまでの積み重ねを継続することも大切であるとと考えております。皆様がこれからの時代を安心して過ごせるような環境を作れるよう貢献したいと考え、今回理事に立候補いたしました。何卒、よろしく願いいたします。</p>	<p>私は事務管理局局長として6年間当士会の運営に微力ながら尽力させていただきました。会員の皆様のご協力によって、当士会は少しずつではありますが、着実に前に進んでいると感じています。また昨年当士会は創立50周年という記念すべき年を迎え、これまで以上に責任感のあるより成熟した団体へ成長していかなければならないと思っています。しかし一方で私たち理学療法士を取り巻く社会状況は厳しさを増しています。更に、昨今のCOVID19感染拡大は、そのことに拍車をかけていると言っても過言ではありません。社会から理学療法士の必要性がより一層認知され、理学療法士が理学療法士としてこれからも働き続けられるようになるためには、当士会の充実した活動は非常に大切なものになってくると思います。私の力は本当に微力ではありますが、当士会の発展のため何らかの形で協力したいと思い今回理事に立候補いたします。</p>	<p>私は、2期4年副会長として山梨県理学療法士会常設委員会・山梨県リハビリテーション専門職団体協議会担当理事を務めてまいりました。協議会事務局としては山梨県作業療法士会、山梨県言語聴覚士会と肩を並べ、県からの委託事業に積極的に取り組んできました。来年度以降もこれらの保健福祉事業等に携わらせていただき、3士会事業のさらなる発展に尽力してまいります。どうかご支援の程よろしく願い致します。</p>

 <p>氏名 鈴木 聡 年齢 43歳 所属 湯村温泉病院</p>	 <p>氏名 磯野 賢 年齢 53歳 所属 甲州リハビリテーション病院</p>	 <p>氏名 大西 正紀 年齢 46歳 所属 甲州リハビリテーション病院</p>	 <p>氏名 三科 貴博 年齢 57歳 所属 健康科学大学</p>
<p>団塊の世代が75歳以上となる2025年問題が目前に迫る中、山梨県の地域包括ケアシステムの構築がどのように進んでいるかご存じでしょうか。山梨県ではこのシステム構築に向けて多職種協働で取り組んでおり、当然ながら理学療法士もその一端を担っております。我々理学療法士が日々の臨床で磨いた知識と技術、そして経験は地域社会に貢献できるものであり、それはすばらしいことだと思います。私はこのことについて、PT士会活動を通じて尽力すべく理事に立候補させていただきました。</p> <p>昨年、当PT士会は創立50周年を迎えることができました。諸先輩方が築いてこられた歴史に敬意を表し次の時代に繋げていくために、私も微力ながらお役に立てるよう努めたいと思います。会員皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>	<p>山梨県理学療法士会は、昨年7月で創立50周年となり、これから新しい半世紀が始まります。次の50年先を見据え、組織の継続性や発展を考え、県士会としても新しい体制作りや活動が重要となって来ると思います。学術団体として、専門職としてのプライドを持ち、互いに高めあい、コロナ禍であっても学び 前に進む。そのためには新しい環境に対応し、何が出来るか考え、実行していく。職能団体として、他団体との関係強化を図るとともにICT化を進め事務局機能を強化し、柔軟な対応が出来るようにしていく。そのような組織づくりを進め、次世代にしっかりとバトンを渡していく役割を担い、会員の皆様のため、そして県民の医療・保健・福祉の推進のため、県士会を更に発展させるべく理事に立候補いたします。</p>	<p>医療、介護の分野で私たち理学療法士を取り巻く環境は変化しています。そのような変化の中で私たち理学療法士は様々な分野での活躍が期待され、成果も求められています。変化に対応し、期待に応えていくためには理学療法士全体の質の向上、県内理学療法士の連携の強化が必要になると思います。連携の強化を図り、理学療法士同士が繋がりを持ち、病院、施設等の枠を超え、繋がりを持った理学療法士の提供を実施できることが理学療法の対象となる方々によりよい理学療法の実現が行えることに繋がると考えます。また、それらを行うことにより理学療法の対象となる方々の期待に応えることに繋がると考えます。それには山梨県理学療法士会全体の質の向上、山梨県理学療法士会の組織としての強化が必要になると思います。それらに対してこれまでの経験を活かし、微力ながら貢献できればと思ひ立候補いたします。</p>	<p>今回山梨県理学療法士会役員選挙に立候補させていただきました健康科学大学健康科学部理学療法学科に所属する三科貴博と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。</p> <p>既に3期6年間本土会の理事を務めさせていただいています。昨年度は創立50周年記念事業に携わりさせていただきました。その際にもテーマとなったのが、これからの本土会をどのように次の半世紀先へつなげていくかといったことでした。</p> <p>そろそろ定年の年齢に近づいてきた私ですが、次世代の本土会を支える理事の方々ことができましたならばもう1期2年という時間を次の半世紀を歩みだしていく礎として共に話し合い作り出していくことができると考えております。</p> <p>また一般会員の方々にも本土会の在り方として現状に則した環境の中でメリットになる、または感じるようなことを提供できないか、その機会を理事としていただけないかお願い申し上げます。</p>



氏名 高村 浩司

年齢 51歳

所属

健康科学大学

コロナ禍の中、社会情勢は目まぐるしく変化しています。理学療法士を取り巻く環境においても、団塊の世代が75歳以上となる2025年問題を念頭に地域包括ケアシステムの構築や理学療法士数の増加に伴う質への懸念など過渡期をむかえています。今後の理学療法士の身分を担保するためには臨床、教育、研究の柱の中で質の高い理学療法を提供し他団体との連携を強固に図ることが重要と思われます。

一般社団法人山梨県理学療法士会の理事としてスムーズな運営の推進と日本理学療法士協会との連携を密に図るとともに、理学療法士の安定した身分確保に尽力したいと思います。

一般社団法人 山梨県理学療法士会 立候補趣旨（監事）（届け順）

 <p>氏名 谷村 英四朗 年齢 72歳 所属 自宅</p>	 <p>氏名 齋藤 智雄 年齢 48歳 所属 甲府城南病院</p>
<p>私は、山梨県理学療法士会の役員の一員として、39年間に渡り関わって参りました。</p> <p>故小林伸一前会長の就任以来監事として努めて参りました。残念ながら前会長は任期半ばで急逝されました。小林イズムを継承して、本会の発展に微力ですが、監事の要職を継続して役割を果たす事と、会員数1000人規模の本会体制を見守りたく、監事への立候補を決意いたしました。</p> <p>何卒、ご理解の上、宜しく願い申し上げます。</p>	<p>私は、本会の監事として平成25年から4期務めさせていただきました。理学療法士を取り巻く環境は変革する中、その役割や変化のスピードも大きくなってきていると感じています。士会活動が効率的かつ適正に実施されますよう、微力ですが監事としてお手伝いをさせていただきたいと考えています。</p>